

令和2年度 東京都立山崎高等学校 学校経営報告

東京都立山崎高等学校長

中村 勝徳

自己評価の基準 【A】十分に達成できた【B】概ね達成できた【C】あまり達成できなかった

1 学習指導

今年度の取組目標と具体的方策	(1) 基礎基本の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学び（自ら学び自ら考える力を養う）の授業を実践する。 (2) 学力スタンダードに基づき、教科会（個人の取組から教科の取組へ）・教科主任会を中心に、生徒の学力を客観的に把握し、3年間を見据えた教科の指導法を確立し、（何を学ばせどのような力を付けさせるか）進捗、到達目標、評価法等を明確に示す。 (3) 同一学年同一教科の考查問題の共通化を推進し、定期考查問題の向上を図る。 (4) 資格取得に向け教科で組織的な取組を推進する。 (5) 新学習指導要領に向けて、教育課程等の編成等に向けて準備及び研修会を実施する。
関連する数値目標	① 双方向型（やり取りのある）授業の実施 ② 生徒による授業満足度 70%以上 ③ 生徒の授業外の学習時間 1時間以上 50%以上 ④ 学習（日常・週末）課題（宿題）・提出物の実施率向上 ⑤ 自習室や図書館の活用率向上 ⑥ 教員同士の相互授業見学の実施率向上 ⑦ ICT等を活用した授業実践の向上 ⑧ 日常の補習、長期休業中の講習の実践率向上 ⑨ 英検・漢検・数検等受験者数、資格取得者数の増加
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	1 自己評価【B】 (1) アクティブ・ラーニング推進校3年目として、校内研修会を7回実施し、双方向型授業に向けての取組を組織的に行った。約80%の生徒が授業の教材や指導法を工夫していると回答。他にプロジェクトチームをつくりオンライン授業の研修も実施。教員同士の相互授業見学は「授業見学シート」を活用し、実施率が86.4%と昨年度より大幅に改善。(2)(3)は、教科間でばらつきがあることが課題。(4)は今年度から1学年全員が漢検・英検を受検し、検定合格に向けて組織的な取組をすることができた。(5)教科会・教科主任会を定期的に開催し、新学習指導要領に向け教育課程を編成した。 ① ②授業満足度は昨年度より13%向上し、74%と目標を達成。③家庭学習時間は1時間以上が19%と目標を大幅に下回った。④も学年によってばらつきが見られた。⑤3年生が進路実現に向けて活用。⑥⑦⑨は向上。⑧63%と評価が低く次年度の課題。 2 次年度以降の課題と対応策 ●双方向型の授業実践に向けての取組は、教科間でまだばらつきがあるため校内研修を通じて、引き続き改善に努めていく。 ●生徒の学習時間を伸ばす工夫を教科・学年で取組む。 ●生徒の学力に幅があるため、習熟度別授業を工夫し、補習・講習を定期的に実施することによって、得意な生徒がさらに学力が伸びるよう、また苦手な生徒には学力を底上げするよう学校全体で取組んでいく。

2 進路指導

今年度の取組目標と具体的方策	(6) 生徒一人一人の個性や能力が発揮できるように、適切な進路選択に向けた指導を行う。 (7) 進路指導部と学年、教科の連携を密にし、保護者・生徒に適切でタイムリーな進路情報を提供する。 (8) 教職員による進路情報・生徒情報（模試分析会等を通して）データを共有し、日常の授業に生かす。
----------------	---

	(9) 1学年インターシップ、2学年自立支援プログラム、3学年就職ガイダンス、専門学校研修会、進路系別説明会等の内容を充実させる。
関連する数値目標	⑩ 進路希望達成率 95%以上 ⑪ GMARCH レベルの大学合格者 3 名以上 ⑫ 日東駒専レベルの大学合格者 5 名以上 ⑬ 進路便りの発行年 6 回以上 ⑭ 全学年個人面談・三者面談の実施年 3 回以上 ⑮ キャリアガイダンス等への肯定的評価 85%以上 ⑯ 1 年生全員によるインターシップへの参加
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	1 自己評価【B】 (6) 学校の進路指導が充実しているは 79%。(7) 個別の進路相談に適切に応じているは 87%と進路指導に対しては概ね良好な回答。(8) は今年度から、7月・10月・1月の実力テストを分析し、企画調整会議、職員会議で報告。また実力テスト前に、各教科で事前の取組を行ったことによって生徒の意欲向上が見られた。(9) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、1年生のインターシップは実施できなかったが、それ以外の進路行事は各学年とも 5 回実施した。 ⑩は 87.3% ⑪東京理科大学 1 名 ⑫は 6 名。また共通テスト受検者は 22 名と昨年度より大幅に増加。⑬進路便りは 6 回発行。⑭面談はコロナ禍ではあったが、各学年とも 7 月から 10 月にかけて三者面談を実施。⑮ほぼ達成。⑯コロナ禍のため実施できなかった。 2 次年度以降の課題と対応策 ●進路指導の充実に関しては、生徒・保護者が学校評価アンケートで 79%・70%と比較的肯定的に回答していたのに対し、教員は 36%と低い割合で回答。学校の進路指導のあり方を組織的な体制にしていくことが次年度の課題。 ●データと最新の資料に基づき、生徒・保護者と二者・三者面談を実施し、生徒一人一人に適した進路指導を実施していく。 ●実力テストや検定に向けて、教科で事前に取り組み、実力テストや検定を意味あるものにしていく。また事後、進路部と教科で分析を行い、日常の授業や補習・講習に生かしていく。

3 生活指導

今年度の取組目標と具体的方策	(10) 全教職員が一致した指導を組織的に行い、HR、授業、部活動、各集会等あらゆる教育活動を通じて、生命の大切さ・基本的な生活習慣やルールやマナー・SNS ルール等を身に付けさせ、自ら考え行動できる自主性を育む指導を行う。 (11) 暴力、いじめ、窃盗等の問題行動に厳格に臨むとともに、スクールカウンセラー等の専門家や関係機関と連携しながら未然防止、早期発見、早期対応に向け組織的な取組を行う。 (12) 経営企画室と連携して、安全管理・環境美化に努めるとともに、生徒会活動の中で生徒が主体となって校内外の美化活動に努める。
関連する数値目標	⑰ 校内規律の理解 95%以上 (特別指導対象者数の減少) ⑱ 生徒によるルールやマナーの自己評価 85%以上 ⑲ 年間遅刻延べ回数の減少とその取組の実施 ⑳ チャイム着席の徹底 100% ㉑ 自転車マナーが良好 100% ㉒ 生徒ロッカー・自転車の施錠の徹底 ㉓ SNS の使用法等情報モラルが身に付いた 80%以上 ㉔ いじめや自殺防止等への取組評価 80%以上
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	1 自己評価【B】 (10) 教員が情報を共有し、組織的な指導を実施するよう努めてきたが、学年間・クラス間で指導のばらつきがあることが課題。 (11) 学校全体で適切な指導を実施。また特別支援コーディネーターを中心に、外部機関と連携した指導を実施した。(12) 安全管理・環境美化に関しては、少しずつ改善しているが課題が残る。 ⑰特別指導対象者は昨年度よりも減少。⑱のルールやマナーの自己評価は 90%。⑲は減少したが依然として課題が残る。⑳は 91%。㉑、㉒は 92%。㉓は 94%。㉔は 86%であった。

	<p>2 次年度以降の課題と対応策</p> <p>●生徒指導に関しては、学年間・クラス間の温度差をなくし、教員間で情報を共有しながら、学校全体でベクトルを一致させ、統一した指導ができるよう継続的な取組を実施していく。</p> <p>●外部機関との連携を引き続き行うとともに、校内で教育相談・特別支援委員会をさらに活性化し、スクールカウンセラーも巻き込みながら、個別な配慮が必要な生徒への対応を実施していく。</p> <p>●創立 40 周年に向けて、施設整備及び環境美化を促進し、生徒が安全で過ごしやすい環境づくりを推進していく。</p>
--	--

4 特別活動・部活動・健康づくり

今年度の取組目標と具体的方策	<p>(13) 学校行事のねらいを達成するとともに、行事を通じて生徒に成就感や達成感を経験させ、生涯にわたってスポーツや文化・芸術等に親しむ素地を養う。</p> <p>(14) 部活動の加入の奨励と部活動を継続させる働きかけを行い、部活加入率の維持向上を図る。</p> <p>(15) 体育の授業、部活動、体育的学校行事等を通じて、健康づくりの基礎知識や基礎体力向上のための習慣を身に付けさせ、生徒の心身の健康づくりのための相談・支援体制を強化する。またオリンピック・パラリンピック教育を推進し、国際理解やスポーツへの興味・関心を増幅させレガシーを構築していく。</p> <p>(16) 教育相談を充実させ、合理的配慮を必要とする生徒への支援を行うとともに、相談しやすい体制や環境づくりを行う。</p> <p>(17) 図書館の積極的利用等を通じて、読書活動の取組を強化する。</p>
関連する数値目標	<p>②5 学校行事への積極的取組肯定的評価 85%以上</p> <p>1 年生の部活動加入率年度末 80%以上（全校部活動加入率 75%以上）</p> <p>②6 スポーツ特別強化校であるアーチェリー部の関東大会以上へ複数名出場</p> <p>②7 体力テストによる生徒平均が全項目で都平均値以上</p> <p>②8 保健だよりを毎月 1 回以上発行</p> <p>②9 教育相談・特別支援委員会の活性化</p> <p>③0 月の読書率の向上（月 1 冊以上本を読む生徒が 80%以上）</p>
自己評価及び次年度以降の課題と対応策	<p>1 自己評価【B】</p> <p>(13) 新型コロナウイルス感染拡大防止のために、学校行事がほぼ一年間出来ない状況ではあったが、授業や委員会活動、部活動を通じて、当初の目標を少しでも達成できるよう努めてきた。(14) 部活動の加入率は、全体で 59.6%。1 年生は男子 81.4%、女子 89.4%。(15) 体育の授業を通じて、基礎体力の向上に努めてきた。またオリンピック・パラリンピック教育推進のために、12 月にコーディネーショントレーニングを実施し、生徒がスポーツへの興味・関心を増幅するよう取組んだ。(16) 教育相談・特別支援委員会をつくり、教員間での情報共有及び教育相談の充実を努めた。(17) 図書館だよりの定期的な発行及び山高の 50 冊を作成し、読書活動の取組を強化した。</p> <p>②5 は実施できていない。②6 アーチェリー部が全国大会に出場。演劇部が都大会で 2 位。野球部が合同チームで 12 年ぶりに夏の大会で一回戦を突破するなど、制限がある中で熱心に活動した。②7 実施できず。②8 12 回発行。②9 は昨年度より活性化した。③0 コロナ禍で貸出数は減少したが、未読書率は、授業での活用が増えたために向上。</p> <p>2 次年度以降の課題と対応策</p> <p>●創立 40 周年に向けて、学校行事の内容を検討（体育祭は大幅に変更することを決定済）し、生徒の主体性を伸ばし、生徒が充足感を覚えるような形式に変更していく。</p> <p>●部活動を継続させる力を養うとともに、チームワークを重視し高め合う集団づくりを行っていく。</p> <p>●個別の配慮が必要な生徒に対して、保護者・学校・関連機関が一体となって相談できる体制づくりを行い、生徒に寄り添った指導を実践していく。</p> <p>●図書館が情報発信の中心地となるように、図書館の積極的利用を、授業での活用を始めとし、学校全体で取組む。</p>

5 募集・広報活動・地域貢献

<p>今年度の取組目標と具体的方策</p>	<p>(18) 学校説明会・学校見学会を工夫し積極的な取組を行う。町田市をはじめとした地域への効果的な中学校訪問や都立高等学校等合同説明会等への積極的・効果的な参加を通じて、本校の魅力をアピールし、本校の特色を理解し、第一志望とする生徒を確保する。</p> <p>(19) 部活動、学校行事等生徒の活躍や学校からのお知らせ及び緊急時の対応等タイムリーに学校ホームページに掲載する。</p> <p>(20) 地域連携（関係機関や近隣の保育園・小中学校等）やボランティア活動等を通じ、生徒の自主性を養い、コミュニケーション能力や表現力を身に付けさせる。</p>
<p>関連する数値目標</p>	<p>① 推薦 2.3 倍、前期 男子 1.3 倍 女子 1.1 倍、後期 1.3 倍 特に女子の応募倍率の向上</p> <p>② HP の更新回数 350 回以上</p> <p>③ 学校説明会用 DVD の完成と有効活用</p> <p>④ 学校説明会等来校者数 1300 名以上</p> <p>⑤ 町田市内及び近隣区市の中学校への教員の訪問回数 2 回以上</p> <p>⑥ 中学校への出前授業・出前説明会 5 回以上</p> <p>⑦ 地域行事に積極的に参加している生徒 50%以上</p> <p>⑧ 地域密着型教育活動推進校として近隣小学校等の学習指導ボランティア参加等を実施</p>
<p>自己評価及び次年度以降の課題と対応策</p>	<p>1 自己評価【C】</p> <p>(18) 学校説明会・見学会はパワーポイントや動画を新しく作成し、行事中心の説明から大幅にリニューアル。950 名が来校。倍率の向上までには至らなかったことが課題。(19)「やまこう Newsletter」を定期的に発行し、最新の学校の様子を、保護者・中学生・地域に発信。(20) 近隣の小中と連携した生徒会による「あいさつ運動」、部活動生徒による地域の清掃ボランティア活動、そして地域の高齢者施設とのオンライン交流ボランティアを実施。また東京家政学院大学と高大連携を 12 月に提携。</p> <p>①推薦は 1.92 倍 前期 男子 1.14 倍 女子 0.86 倍 後期 0.74 倍と目標に達せず。②570 回。③新しいものを作成。④コロナ禍で 950 名来校。⑤は 2 回 ⑥⑦⑧はコロナ禍のため可能な範囲で実施。</p> <p>2 次年度以降の課題と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ●町田市内の中学生に本校の良さをさらにアピールしていく。また本校にアクセスしやすい近隣地域の中学校を訪問し、第一志望の生徒を増やしていく。 ●今年度に引き続き、HP の改善を行い、保護者・中学生・地域に情報発信していく。 ●地域密着型教育活動推進校として、ボランティア活動を始めとし、地域活動に貢献していく。

6 学校経営・組織体制

<p>今年度の取組目標と具体的方策</p>	<p>(21) 企画調整会議を単なる報告会ではなく、様々な知恵を出し合い、課題解決と新たな取組ができる場とする。また学校経営計画の理解浸透、全教職員の情報共有、意見聴取の場とする。分掌部会、教科会、教科主任会、校内研修会の充実を図る。</p> <p>(22) 経営参画ガイドラインに基づき、学校経営を支える企画立案への積極的な取組と教員と経営企画室が一体となって学校経営上の課題をタイムリーに解決する。</p> <p>(23) 適正な予算編成と計画的・効率的な予算執行を実施。施設設備の安全管理・維持及び迅速な修繕を実施し、財産管理を適正に行うことによってリスクマネジメントを強化する。</p> <p>(24) 日常的な点検を怠らず、報告・連絡・相談を徹底する。また研修等を通じて体罰禁止や服務規律に対する意識を向上させる。</p> <p>(25) 計画的な仕事の進行管理により、業務の効率化を徹底し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。業務の無駄を省き、整理と縮減・削減、超過勤務時間の削減を推進する。</p>
-----------------------	---

<p>関連する数値目標</p>	<p>③各分掌が学校経営計画に基づき、各分掌の組織目標を設定し、中間総括及び年度末総括を実施することで、1年間のPDCAマネジメント・サイクルを確立 ④一般需用費の学校経営支援センター利用率70%以上 ④一般需用費の予算執行率100% ④学校徴収金未納者ゼロ人 ④サービス事故ゼロ、体罰ゼロ、会計事故ゼロの実施 ④適切な来校者・電話対応で苦情ゼロ ④教職員の個別の超過勤務時間の削減</p>
<p>自己評価及び次年度以降の課題と対応策</p>	<p>1 自己評価【B】 (21) 企画調整会議が、課題解決型の会議になりつつあるが、分掌間の調整に課題が残った。(22) 経営企画室の参画により、経営上の課題は比較的迅速に課題解決が出来た。(23) 予算編成、予算執行、施設設備の改善、財産管理を適正に実施。(24) 研修や会議を通じて、体罰やサービス規律の意識向上を図った。(25) 下校時間の厳守や会議のスリム化等ライフ・ワーク・バランスを実施したが課題が残った。 ③学校運営連絡協議会で報告。④は78.2% ④未納者ゼロ ④サービス事故・体罰・会計事故ゼロ。④特に苦情はない。④特定の教職員の超過勤務が課題。</p> <p>2 次年度以降の課題と対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企画調整会議や各分掌部会・学年会等を課題解決型にシフトするとともに、各分掌・学年間で調整を図り、学校運営を円滑に実施していく。また校内研修のさらなる充実を図っていく。 ●教員と経営企画室が一体となり、学校改革を進める。また2年後の創立40周年記念式典に向けて委員会を発足させ、準備を開始する。 ●適切に予算執行を行い、会計事故・サービス事故・体罰ゼロの目標を達成する。またライフ・ワーク・バランスを推進していく。